

国際交流フェスティバル

外国人医療テーマに討論

情報不足に戸惑い

国際化へ問題浮き彫り

21日、いわて国際交流フェスティバル二日目の四日、外国人に対する医療を考える

民館には、医師や外国人を含め約六十人が集まった。

のわからない人が身近に住んでいることを認識してほしい」と話し、桑山紀彦山

パネルディスカッションがあり、会場の盛岡市中央公

報センター所長が「日本語

形大医学部付属病院精神科医師は「まず識字教育

が必要」と日本語教育の重要性を訴えた。

一方インド出身で釜石市に住むベンカテ・スワランさんは「健康保険制度が複雑でわかりにくい上、外国人への情報が不足している」と指摘、米国出身で盛岡市に住む坂本ロビンさんは「診察時間が短すぎる。もっと説明が欲しい」と話した。

これを受けて小林所長は